

テーマ：貿易統計（2017年9月）
発表日：2017年10月19日（木）
～実質輸出は単月で大幅マイナスも均してみれば増加傾向～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 齋藤 麻菜
 TEL：03-5221-4573

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		原数値		輸出金額		輸入金額		前年比	アメリカ	EU	アジア	前年比	アメリカ	EU	アジア
				前年比	前年比	前年比	前年比								
16年	8月	▲ 346	2,972	▲ 9.6	▲ 17.0	0.8	▲ 5.7	10.2	3.3	3.8	0.7	2.4	5.9		
	9月	4,866	2,907	▲ 6.9	▲ 16.1	4.7	4.7	13.1	3.1	▲ 1.6	0.1	0.3	▲ 0.9		
	10月	4,812	3,730	▲ 10.3	▲ 16.3	▲ 1.4	▲ 2.0	1.7	▲ 0.9	▲ 2.5	2.8	▲ 0.4	▲ 3.3		
	11月	1,465	4,021	▲ 0.4	▲ 8.7	7.4	8.8	8.2	8.6	3.6	3.6	5.2	5.1		
	12月	6,359	3,419	5.4	▲ 2.5	8.4	5.2	3.5	13.4	3.6	15.7	12.7	1.8		
17年	1月	▲ 10,919	1,601	1.3	8.4	▲ 0.3	▲ 5.1	▲ 2.7	4.2	6.3	15.9	4.0	9.7		
	2月	8,111	6,346	11.3	1.3	8.3	2.2	4.9	16.0	▲ 4.3	2.6	1.5	▲ 8.2		
	3月	6,103	1,650	12.0	15.9	6.6	4.5	▲ 0.0	7.6	4.2	14.3	4.5	6.0		
	4月	4,792	1,227	7.5	15.2	4.2	2.8	2.7	6.8	4.9	7.7	3.0	5.7		
	5月	▲ 2,064	1,437	14.9	17.9	7.5	8.0	16.7	6.6	5.4	5.5	3.0	8.7		
	6月	4,414	603	9.7	15.5	4.0	5.2	4.6	3.6	4.2	13.6	7.8	3.4		
	7月	4,220	3,020	13.4	16.3	2.6	3.0	▲ 1.0	1.9	3.2	5.5	4.6	6.6		
	8月	1,126	3,083	18.1	15.2	10.4	18.1	2.9	9.4	2.4	1.0	3.6	3.5		
	9月	6,702	2,403	14.1	12.0	4.8	6.2	▲ 1.7	8.9	▲ 0.3	13.8	4.2	▲ 1.1		

○輸出は伸びを止める

9月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は+6,702億円（コンセンサス：+5,598億円、レンジ：+3,028～+6,969億円）と、コンセンサスを上回る結果となった。

輸出金額は、前年比+14.1%（コンセンサス：+14.9%、レンジ：+9.5%～+19.7%）となった。円安を背景に輸出価格が同+8.9%と増加したことが、輸出金額の増加に寄与している。輸入金額は、同+12.0%（コンセンサス：+14.7%、レンジ：+11.2%～+18.6%）と、9ヶ月連続の増加となった。原油や石炭などの価格上昇を受けて輸入価格が同+12.3%と上昇した一方で、数量についてはアジア向けが減少したこと、小幅ながら7ヶ月ぶりのマイナスとなった。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲0.3%、輸入金額が同+0.7%となった。輸出が減少、輸入が増加したことで、貿易収支は+2,403億円と黒字幅を縮小させる結果となった。

○実質輸出は前月比▲4.2%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比▲4.2%（8月：同+1.4%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と大きく減少した。

実質輸出を国別にみると、米国向けは、乗用車の減少を受けて輸送用機器が大きく押し下げ、同▲5.2%と減少となった。その他、アジア向けについても輸送用機器やI C等の電気機器が減少し同▲2.0%、欧州向けについても輸送用機器を筆頭に電気機器、化学なども減少寄与となり同▲2.4%となるなど、実質輸出は全地域でマイナスに転じた。特に減少が目立った米国向け輸送機械輸出は、前月比▲11.5%と12年6月以来の大幅減少となり、実質輸出全体を前月比で▲0.9%pt押し下げた。ただし、米国自動車販売については9月に改善するなど、悪化が続いている訳ではない。中でも、日本車の販売は底堅く、小幅ながら増加基調にあることを考えると、米国向け輸送機械輸出の減少が続くとは想定しがたく、来月分で増加に転じる可能性が高

いと考える。アジア向け輸出についても、すでに公表されているアジア各国の貿易統計はいずれも堅調で、変調の兆しは見られない。以上を踏まえると、9月の実質輸出は大幅減少となったが、輸出の増加基調が崩れたとは考えにくい。

四半期でみると、7-9月の実質輸出は、前期比+1.3%とプラスに転じている。米国向けが増加基調を維持したことに加え、アジア向けも増加に転じた。船舶の影響で欧州向けこそ減少したものの、全地域で好調に推移したと言えよう。4-6月期の減少要因となっていたアジア向けの電気機器については、7-9月には持ち直しをみせ、全体を押し上げている。電子部品については引き続き広い分野で需要は強く、底堅く推移することが見込まれる。世界経済の拡大が想定されることから、輸出は引き続き増加基調を辿るだろう。

○輸出は今後も増加基調で推移

以上のように、9月の実質輸出は、全地域で減少する結果となったが、このところの高い伸びを考えれば反動の域を出ず、輸出は今後も増加基調で推移することを見込んでいる。

海外経済について先行きを展望すると、米国経済は雇用情勢や消費者マインドが依然良好であり、景気拡大が続くとみられる。アジア経済については、中国共産党大会後の状況には不透明感があるが、中国経済も足元までは堅調さを維持しており、減速は確認されない。こうした中では、好調な米国経済の影響を受けてアジア経済は底堅く推移する可能性が高そうだ。世界経済は総じて景気拡大を続けることが想定され、実質輸出は今後も引き続き増加基調を辿ることが見込まれる。

